

# メンズ・エステを拡充するエステ業界

～カギを握る「ちょいもてオヤジ」の取り込み～

2006年 8 月18日 (金)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

## ～要 旨～

素肌やプロポーション、心のリラクセーションに対する女性の要求が高まるなか、1990年代以降、「エステティックサロン」を利用する女性の数が増えてきた。「エステティック」に明確な定義はないが、一般的には、髪以外の全身を美しく保つために行われる様々な施術のことをさすことが多い。

エステティックサロンの市場は急拡大しているといわれるが、現状、エステティックサロンの市場規模はどれぐらいの大きさになるのか。N T Tのタウンページをもとに、全国のエステティックサロンの事業所数をひとつずつカウントしていくと、2006年 7 月末時点では 2 万 6984 事業所となった。

このうち、会社形態のエステティックサロンが約 2700 事業所で全体の 1 割程度を占める。残りの 9 割は個人形態のエステティックサロンだ。経済産業省の「特定サービス産業実態調査」における会社形態のエステティック業 1 事業所あたり平均売上高と、個人形態のエステティック業 1 事業所あたり平均売上高をもとに、全体の市場規模を算出すると 2006 年は 4421.1 億円となる見込みだ。

エステティックサロンの利用者は今後も増加傾向で推移すると予想され、それに伴ってエステティックサロンの市場も拡大していくとみられる。ただし、エステティック業界には法的な規制がなく、参入が容易であることから、近年では、需要の増加ペースを大きく上回るテンポで新規参入事業者が増えてきている。このため、全体のマーケットが拡大するなかであっても、業者間の競争は一段と激化してくる可能性が高い。個々の業者にとっては、新規サービスの開発・提供などによって、他店との差別化を図っていくことが重要といえよう。

エステ業界は、近年、男性がオシャレに気を配るようになってきたことに注目し、女性だけでなく、男性もターゲットにするようになってきた。一部の大手エステティックサロンでは、メンズエステ専門店をオープン、フェイシャルエステで顔をツヤツヤにするなど男性顧客を取り込みつつある。メンズエステを利用する男性の中心は 20 代や 30 代の若者が中心であるが、「ちょいワルオヤジ」や「ちょいもてオヤジ」、「ちょいヤバオヤジ」なども少しずつ参入してきているという。